
状態目標2-1の総合評価の変更について (コメ品種の多様性のデータの解釈の修正に伴う対応)

コメ品種の多様性のデータの解釈の修正

国家戦略の目標要素	指標区分			A指標	B指標	C指標
	大区分	小区分	細区分			
国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している	供給サービス	食料-農産物	供給力	JB(B20-1) 耕地面積(田) JB(B20-1) 耕地面積(畑)		
			供給量	JB(P1-1) 水稻の生産量 JB(P1-3) 小麦・大豆の生産量 JB(P1-5) 野菜・果実の生産量 JB(P1-7) 農作物の多様性 JB(P1-8) コメ品種の多様性		JB(P1-2) 水稻の生産額 JB(P1-4) 麦類・豆類の生産額 JB(P1-6) 野菜・果実の生産額 JB(P1-9) 畜産の生産量 JB(P1-10) 畜産の生産額
			消費量			米の消費量(新規) 小麦・大豆の消費量(新規) 野菜・果実の消費量(新規) 畜産物の消費量(新規)

【把握方法】 ※付属書より抜粋

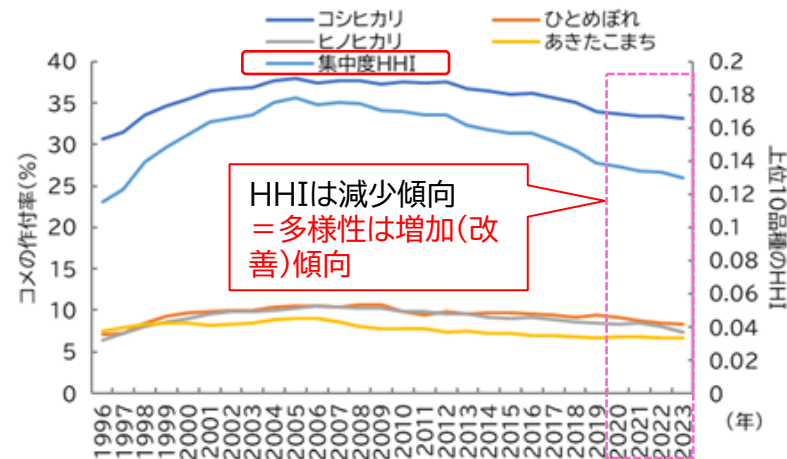
米穀安定供給確保支援機構：米穀機構米ネットの品種別作付動向より、各年の品種別作付割合のうち上位10位までを引用し、ハーフィンダール・ハーシュマン指数(HHI)を算出する。本指数は、ある市場に参加する複数業種の占有状態を図る指標であり、参加業種の占有率の二乗倍を足し合わせた値で、特定業種の占有率が高ければ高いほど1に近づき、多様性は低下すると判断できる。

例えば、

AとBで50%ずつ占有している場合： $0.5^2 + 0.5^2 = 0.5$

A,B,C,D,Eで20%ずつ占有している場合： $0.2^2 + 0.2^2 + 0.2^2 + 0.2^2 + 0.2^2 = 0.2$

となり、2社占有の方が値が高くなる。



集中度HHIの値は2020年以降減少傾向(1から離れる傾向)にあったが、前回検討会時点では「多様性は減少(後退)傾向にある」と誤って解釈していた。

今回、「多様性は増加(改善)傾向にある」と解釈を修正した。

状態目標2-1の総合評価の変更

(減少)が 2/3程度以上
→1/2～2/3程度未満

国家戦略の目標要素	指標区分		中間提言時点の指標数			現在の傾向(短期トレンド)	指標詳細 (資料2-2付属書掲載ページ)	評価結果
	大区分	小区分	A	B	C			
国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるように生態系サービスが現状以上に向上している	生態系サービス	—	0	1	0	傾向不明	p.179～	増加:1、維持:1、減少:5 ↓ 増加:2、維持:1、減少:4
	供給サービス	食料-農産物	2	0	0	供給力:減少傾向	p.180～	
			5	0	5	供給量:多くが減少傾向だが、一部維持傾向、増加傾向のものがある →増加傾向、減少傾向、維持傾向のものがある		
			0	0	4	消費量:—		
		食料-特用林産物	0	0	0	供給力:—	p.196～	
			3	0	0	供給量:減少傾向		
			0	0	2	消費量:—		
		食料-水産物	1	0	0	供給力:減少傾向	p.201～	
			5	0	4	供給量:増加傾向、減少傾向、維持傾向のものがある		
			0	0	1	消費量:—		
		資源-淡水	0	0	0	供給力:—	p.212～	
			1	0	0	供給量:維持傾向		
			0	0	0	消費量:—		
		資源-木材	1	0	0	供給力:増加傾向	p.213～	
			4	0	1	供給量:増加傾向		
			0	0	3	消費量:—		
		資源-原材料	0	1	0	供給力:傾向不明	p.222～	
			3	0	1	供給量:多くが維持傾向だが、一部減少傾向のものがある。		
			0	0	3	消費量:—		
		資源-遺伝資源	0	0	0	供給力:—	—	—
			0	0	0	供給量:—		
			0	0	0	消費量:—		
		資源-薬用資源	1	0	0	供給力:維持傾向	p.230～	
			1	0	0	供給量:維持傾向		
			0	0	0	消費量:—		

下線:主に評価に用いた指標

国家戦略の 目標要素	指標区分		中間提言時点の指標数			現在の傾向(短期トレンド)	指標詳細 (資料2-2付属 書掲載ページ)	評価結果	
	大区分	小区分	A	B	C				
国民や地域 がそれぞれの 地域自然 資源や文化 を活用して 活力を発揮 できるよう 生態系サー ビスが現状 以上に向上 している	調整サー ビス	気候の調節	<u>4</u>	2	2	多くが後退傾向だが、一部維持傾向のものがある	p.234～		
		大気の調節	0	<u>2</u>	0	傾向不明	p.243～	—	
		水の調節	0	1	0	傾向不明	p.245～	—	
		土壌の調節	0	<u>3</u>	0	傾向不明	p.247～	—	
		災害の緩和	1	3	0	維持傾向	p.251～		
		生物学的コントロール(花粉媒介や病害虫抑制)	<u>2</u>	0	0	減少傾向、増加傾向のものがある	p.256～		

下線:主に評価に用いた指標

国家戦略の目標要素	指標区分		中間提言時点の指標数			現在の傾向(短期トレンド)	指標詳細 (資料2-2付属書掲載ページ)	評価結果	
	大区分	小区分	A	B	C				
国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している	文化的サービス	宗教・祭り	1	0	1	維持傾向	p.258～		
		教育	1	0	1	減少傾向	p.260～		
		景観	1	0	0	減少傾向	p.262～		
		伝統芸能・伝統工芸	1	0	2	維持傾向	p.263～		
		食文化	8	1	1	減少傾向、維持傾向が同程度あり、一部増加傾向のものがある	p.266～		
		観光・レクリエーション	4	2	0	増加傾向、減少傾向がある	p.276～		

下線:主に評価に用いた指標

総合評価

状態目標1 国民や地域がそれぞれの地域自然資源や文化を活用して活力を発揮できるよう生態系サービスが現状以上に向上している

【現在の傾向（短期トレンド）】



後退したがその程度は限定的:2
大きな進展なし:1

後退したがその程度は限定的:1
大きな進展なし:2

	中間提言時点の指標数	主に評価に用いた指標数
A指標	48個 (50%)	48個 (86%)
B指標	16個 (17%)	8個 (14%)
C指標	32個 (33%)	